記してあるが低気圧が 300粁以上の沖合を通る場合でも急速に発達するもの，又別の低気圧が銚子沖に発生する場合にも突風を伴うことがある．これ等原因については更に究明の要はあるが，一応太平洋低気圧通過に伴う北よりの突風の予想として次の事が云えると思う．

太平洋低気圧が九州ないし四国沖にある場合，今後の進路，速さ，示度の変化に見当をつけ一応突風の有無を予想し，低気圧が紀伊半島から東海道沖に来て八丈島北方を通る公算が多く示度も深まり速さも速いという状況になったら必ず突風現象を伴うと判定して良さそうである．

なお太平洋低気圧が接近して銚子の風が東分を帯びしかも東京との気温差が大きい（銚子が高い）場合，低気圧が通過する際突風的に北よりの風が強まる事が多いのでこの点を目安にするとなお効果的である．

## 8. 結　論

以上の結果をまとめると

i）銚子の突風を分類すると5つの型に大別出来る．そして吹き出し後も強風の連続するものが多い．

ii）銚子の突風は冬から春にかけて多い．

iii）銚子の突風の出現は一般に夜間に多い事（主として北よりの突風）は第一報で強風の吹き出しで述べたと同様に銚子附近の海難防止上重要である．

iv）銚子の北よりの突風は，太平洋低気圧，主寒冷前線，二次前線によるものが多く，南よりの突風は主寒冷前線によるものが多い．

v）太平洋低気圧の通過により銚子で北よりの突風が起る場合の目安として次の様な事が云える．低気圧の中心が銚子から約 300粁以内の海上に入り速さが時速約45粁以上でしかも一応発達していること（示度には特別関係はない，又速さの速いものは示度の深まりが小でもよい）．

終りに御指導を戴いた研修所の山中先生，御批判を戴いた長野地方気象台の北出台長，銚子地方気象台の佐藤台長と神子予報官ならびに御支援を戴いた東京管区気象台の正務調査課長，気象研究所の奥田技官に深く感謝致します．

# 森正隆・前田末広・本山彦一氏などの関係

### ―「測候時報」と「天気」の記事に関して

森正隆氏は東大出身政友系の敏腕家で，明治32年頃は新潟県警察部長で気象に理解があっただけ気象同業者をなやました人である．その頃漁をたしなみ夕刻散歩がてらに測候所を訪い海上出漁の安否を確めるとか気象警報電報を検閲するとか地方議会にて測候所のためにも尽されたが測候所長にとっては随分厄介な部長であった．併しご本人は至極気象熱心家であった．明治38年の頃は秋田県内務部長であった，曾て中央気象台測候課長三浦栄五郎君も若年秋田測候所に雇員として明治38年8月に採用された後間もなく明治39年1月の頃宿直当番のおり夕刻内務部長より天候問合せの電話に回答すると身分を尋問されそんなものが返答する資格はない所長を呼べと命ぜられた．翁若気たっぷりの頃でその応答に腹を立て職を抛て出京し中央気象台に就職を頼みこみ雇員となり技手となり在清国観測所勤務から測候係主任課長となり，終戦後は秋田測候所長となられた．至極壮健であったが不幸脳溢血で郷里秋田に訃れた．この事実は岡田先生の測候鎖談にも残されておる．話はもとに返り明治42年4月秋田測候所で関東北連合気象協議会が開かれたが森内務部長を議長席に就かせ議事の進行を謀ったが所長官舎の問題から宿直者の責任論となり測候所長連と事業上激論を交え収終できなくなり松山貫一郎所長立場を失ったこともあった．大正5年の頃か森氏は知事に昇進し茨城県知事となられた．水戸に着任すると水戸測候所長宇野藤熊君の推挙から深く故山階宮殿下のご遺業を奉賛し筑波登山数次詞を篤くして余を遇し高山観測の要義を解するに力め，殿下の御事業を篤く奉賛し援助の丹心から山麓筑波駅から中腹に至る自動車道を建設するよう直に測量を始め，設計成りて茨城県会に提議し高山気象観測に奉賛の意図を表示されたが，浮草の官吏生活はその決議でき実際工事に着手する頃大正7年の秋滋賀県知事に転任の命を稟けて去られた．この頃の知事であるから2，3年と覚悟せなくてはならぬ森知事は滋賀県に行いて何か在任中に森知事の事業として後世に残したいが茨城県の筑波山観測所を思い合せ有名な伊吹山頂に観測所を建設せんとの意を決し大正8年の年頭に彦根測候所長前田末広氏を招いてその計画を命じた．その頃前田君は命を稟けて経験も乏しいので筑波山に余を訪い共同して計画書を造られた．併し，この事業を県の事業として起すとなると成就するには3，4年かかるため森知事の遺業とならぬから知事の威力を以て長浜の富豪下郷伝平氏を説き建設費一切14,000円を寄附せしめ通信施設と1カ年経常費20,000円宛2カ年分は政友会知事の権威で大阪毎日新聞社長本山彦一氏に寄附せしめた．斯くて森知事の御土産として伊吹山測候所が生れた．茲に前田君と本山社長の関係ができた．

前田君もその後久しからず大正9年12月長崎測候所長に転任されたがその頃長崎県では温泉岳公園開発の企画中であったから伊吹山の事を思浮べ温泉岳観測所建設を提議し同時に西海洋上五島に富江測候所を建設させた．共に建設費は本山毎日社長の寄附金を仰いだ．それで伊吹山と温泉岳に測候所ができた訳であるが前田君後下野信之君亡後に大阪測候所長となり益々本山毎日社長と連繋防災気象事業などに奮励されたが不幸昭和15年12月病を以てなくなられた．

以上政友系知事森正隆，下郷伝平，本山彦一，前田末広氏等の関係を略述しその事業に言及した．